

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成28年11月14日
【四半期会計期間】	第94期第2四半期（自平成28年7月1日至平成28年9月30日）
【会社名】	日油株式会社
【英訳名】	NOF CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 小林 明治
【本店の所在の場所】	東京都渋谷区恵比寿四丁目20番3号
【電話番号】	東京03(5424)6600(代表)
【事務連絡者氏名】	経理部長 石垣 良一
【最寄りの連絡場所】	東京都渋谷区恵比寿四丁目20番3号
【電話番号】	東京03(5424)6600(代表)
【事務連絡者氏名】	経理部長 石垣 良一
【縦覧に供する場所】	日油株式会社大阪支社 （大阪市北区堂島二丁目4番27号） 日油株式会社名古屋支店 （名古屋市中村区名駅南一丁目24番30号） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第93期 第2四半期連結 累計期間	第94期 第2四半期連結 累計期間	第93期
会計期間	自平成27年4月1日 至平成27年9月30日	自平成28年4月1日 至平成28年9月30日	自平成27年4月1日 至平成28年3月31日
売上高 (百万円)	82,273	83,322	170,460
経常利益 (百万円)	9,869	11,635	20,161
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (百万円)	6,853	8,340	13,589
四半期包括利益又は 包括利益 (百万円)	6,736	7,409	10,193
純資産額 (百万円)	133,433	137,419	135,636
総資産額 (百万円)	194,587	195,798	196,293
1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	38.40	47.78	76.41
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	68.17	69.80	68.69
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	4,662	9,488	16,906
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	2,756	2,466	5,408
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	5,123	5,975	6,478
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	11,205	19,226	18,930

回次	第93期 第2四半期連結 会計期間	第94期 第2四半期連結 会計期間
会計期間	自平成27年7月1日 至平成27年9月30日	自平成28年7月1日 至平成28年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	20.31	22.30

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社および当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1)業績の状況

当上半期のわが国経済は、政府・日銀による経済・金融政策を背景に、雇用・所得環境の改善が続くなかで緩やかな回復基調が継続いたしました。設備投資や輸出が伸び悩むなど弱さもみられました。海外経済は、米国の景気回復は継続したものの、中国およびアジア新興国の成長鈍化や英国の欧州連合（EU）からの離脱問題など景気下振れリスクが顕在化いたしました。

当社グループを取り巻く事業環境は、国内および欧米の需要は底堅く推移したものの、中国およびアジア新興国経済の減速などの影響が懸念される状況にありました。

このような事業環境下において、当社グループは新たな成長軌道を切り拓くため2016年度を最終年度とする3ヵ年計画「2016中期経営計画」の基本方針「新製品・新事業開発の加速」「海外事業展開の拡大」「経営体質の更なる強靱化」「戦略的組織への改編」を推進するとともに、高機能・高付加価値製品による新市場開拓と拡販ならびに生産コストの低減に努め、持続的成長に向けた経営努力を積み重ねてまいりました。

新製品開発では、国内外における産学官連携を強化し、研究開発のスピードアップを図りました。営業体制では、4月にベトナムの販売拠点で営業活動をスタートさせ、海外営業ネットワークの強化を図りました。

これらの結果、当上半期の売上高は、83,322百万円と前年同期比1.3%の増収となりました。また、高付加価値製品の拡販および生産コスト低減効果により営業利益は、11,962百万円と前年同期比32.4%の増益、経常利益は、11,635百万円と前年同期比17.9%の増益、親会社株主に帰属する四半期純利益は、8,340百万円と前年同期比21.7%の増益となりました。

以下、各事業セグメントの概況についてご説明申し上げます。

機能化学品事業

脂肪酸誘導体は、環境エネルギー関連の需要が減少し、売上高は減少しました。

界面活性剤は、トイレットリー関連の需要が好調に推移し、売上高は増加しました。

エチレンオキサイド・プロピレンオキサイド誘導体は、土木・建築向けの需要が減少し、売上高は減少しました。

有機過酸化物は、アジアでの需要が底堅く、売上高は前年同期並みとなりました。

ディスプレイ材料は、中小型液晶パネル関連の需要が堅調に推移し、売上高は増加しました。

特殊防錆処理剤は、国内、北米での自動車関連の需要は底堅く推移したものの、為替影響により売上高は減少しました。

これらの結果、機能化学品事業の売上高は、55,042百万円（前年同期比2.8%増）、営業利益は、9,061百万円（前年同期比46.7%増）となりました。

ライフサイエンス事業

食用加工油脂は、製菓・製パン用機能性油脂の需要が底堅く、売上高は前年同期並みとなりました。

機能食品関連製品は、既存品の需要が底堅く、売上高は前年同期並みとなりました。

生体適合性素材は、MPC（2-メタクリロイルオキシエチルホスホリルコリン）関連製品のアイケア向けの需要が減少し、売上高は減少しました。

DDS（ドラッグ・デリバリー・システム：薬物送達システム）医薬用製剤原料は、欧米大口需要家への出荷が好調に推移し、売上高は増加しました。

これらの結果、ライフサイエンス事業の売上高は、12,702百万円（前年同期比0.6%減）、営業利益は、2,627百万円（前年同期比17.6%増）となりました。

化薬事業

産業用爆薬類は、公共事業関連の需要が減少し、売上高は減少しました。

宇宙関連製品は、ロケット向け製品の出荷が堅調に推移し、売上高は増加しました。

防衛関連製品は、売上高は減少しました。

これらの結果、化薬事業の売上高は、14,903百万円（前年同期比2.4%減）、営業利益は、783百万円（前年同期比22.7%減）となりました。

その他の事業

その他の事業は、運送事業および不動産事業から構成されております。その売上高は、674百万円（前年同期比3.5%減）、営業利益は、100百万円（前年同期比74.6%増）となりました。

（２）キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益の増加1,750百万円、運転資金の増加2,373百万円、法人税等の支払額の減少212百万円等により、前年同期に比べ4,826百万円の増加となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、投資有価証券の売却による収入の減少34百万円、有形及び無形固定資産の取得による支出の減少235百万円、有形及び無形固定資産の売却による収入の増加7百万円等があり、前年同期に比べ289百万円の支出減となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、前年同期に比べ主に借入金の増加136百万円、自己株式の取得による支出の増加681百万円等の結果、前年同期に比べ852百万円の支出増となりました。

以上の結果、現金及び現金同等物の当四半期末残高は、前期末に比べ296百万円増加し、19,226百万円となりました。

（３）事業上及び財務上の対処すべき課題

当第２四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき事業上および財務上の課題について、重要な変更はありません。

なお、当社は財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等（会社法施行規則第118条第３号に掲げる事項）は次のとおりであります。

会社の支配に関する基本方針

当社は、当社の財務および事業の方針の決定を支配する者は、当社の経営理念や企業価値の様々な源泉、当社を支えるステークホルダーとの信頼関係を十分に理解し、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を確保、向上させる者でなければならないと考えております。一方、当社の支配権の移転を伴う買付提案等がなされた場合にこれに応ずるか否かの判断は、最終的には株主の皆様の意思に基づき行われるべきものと考えております。

しかしながら、株式の大規模な買付行為や買付提案の中には、その目的等から見て企業価値ひいては株主共同の利益に対する明白な侵害をもたらすもの、株主に株式の売却を事実上強要するおそれのあるもの、対象会社の取締役会や株主が買付の条件等について検討するための、あるいは対象会社の取締役会が代替案を提案するための十分な時間や情報を提供しないものなど、不適切なものも少なくありません。

このような大規模な買付行為や買付提案を行う者は、例外的に当社の財務および事業の方針の決定を支配する者として不適切と考えております。

会社の支配に関する基本方針の実現に資する取組み

当社は、1937年の創業以来、事業の多角化、事業のグローバル化、そしてまた、事業領域と経営資源の選択と集中を進めながら、幅広い事業領域を有する総合化学メーカーとして成長してきました。

現在、当社は、「バイオから宇宙まで幅広い分野で新しい価値を創造し、人と社会に貢献します」との経営理念に基づいて、安定的かつ持続的な成長と発展を実現すると共に、社会の一員として、コンプライアンスはもとより、自然環境保護や健康、安全の確保などの企業の社会的責任を果たすことにより、あらゆるステークホルダーの皆様にとって、存在価値のある企業であり続けることを目指しております。

上記の長期的な視点に立った経営理念の下で、当社は、中期的に実現すべき目標として、期間を３年間とする中期経営計画を策定し、その達成に向け、計画を推し進めております。

当社は、永年培ってきた多様な固有技術を含む有形・無形の経営資源が一体となって、当社の企業価値を創造していると考えております。従って、これらの経営資源を十分理解し最大限有効に活用して、安定的かつ持続的な企業価値の更なる向上を目指すことが、株主の皆様との共同の利益に資するものと考えます。

会社の支配に関する基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務および事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組み

当社は、平成28年5月10日開催の当社取締役会において、特定株主グループの議決権割合を20%以上とすることを目的とする当社株券等の買付行為または結果として特定株主グループの議決権割合が20%以上となる当社株券等の買付行為（いずれについてもあらかじめ当社取締役会が同意したものを除き、また市場取引、公開買付け等の具体的な買付方法の如何を問いません。以下、かかる買付行為を「大規模買付行為」といい、かかる買付行為を行う者を「大規模買付者」といいます。）に対する対応方針（以下「本対応方針」といいます。）を決議しました。本対応方針の概要は以下のとおりです。

大規模買付者が下記 a . および b . の大規模買付ルールを遵守した場合には、当社取締役会は、当該大規模買付行為が明らかに株主共同の利益を著しく損なうと判断される場合を除き、原則として当該大規模買付行為に対する対抗措置はとりません。

- a . 事前に大規模買付者は当社取締役会に対して当社株主の皆様の判断および取締役会としての意見形成のために必要かつ十分な情報を提供する。
- b . 当社取締役会による一定の評価期間が経過した後に大規模買付行為を開始する。

一方、大規模買付者により、大規模買付ルールが遵守されなかった場合には、当社取締役会は、株主共同の利益を守ることを目的として、会社法その他の法律および当社定款が認める対抗措置を講じ、大規模買付行為に対抗する場合があります。当社取締役会が対抗措置の発動の是非について判断を行う場合は、社外取締役、社外監査役または社外有識者からなる独立委員会の勧告を最大限尊重するものとし、具体的にいかなる手段を講ずるかについては、その時点で最も適切と当社取締役会が判断したものを選択することとします。

また、当社取締役会は、独立委員会が対抗措置の発動について勧告を行い、発動の決議について株主総会の開催を要請する場合には、株主の皆様に発動の可否を十分にご検討いただくための株主検討期間を設けた上で、株主総会を開催することがあります。

本対応方針は、平成28年6月29日開催の当社第93期定時株主総会の決議をもって同日より発効し、有効期間は、平成31年6月に開催される当社第96期定時株主総会終結の時までとしており、有効期間中に、a . 当社の株主総会において本対応方針を廃止する旨の決議が行われた場合、b . 当社の株主総会で選任された取締役で構成される当社取締役会により本対応方針を廃止する旨の決議が行われた場合には、その時点で廃止されるものとし、

本対応方針の合理性について

本対応方針は、経済産業省および法務省が平成17年5月27日に発表した「企業価値・株主共同の利益の確保又は向上のための買収防衛策に関する指針」の定める三原則（企業価値・株主共同の利益の確保・向上の原則、事前開示・株主意思の原則、必要性・相当性確保の原則）を充足しています。

また、経済産業省に設置された企業価値研究会が平成20年6月30日に発表した報告書「近時の諸環境の変化を踏まえた買収防衛策の在り方」および東京証券取引所が平成27年6月1日に公表した「コーポレートガバナンス・コード」の「原則1 - 5 いわゆる買収防衛策」の内容も踏まえたものとなっております。

本対応方針は、当社株式に対する大規模買付行為がなされた際に、当該買付等に応ずるべきか否かを株主の皆様が判断し、あるいは当社取締役会が代替案を提示するために必要な情報や時間を確保し、株主の皆様のために買付者等と交渉を行うこと等を可能とすることにより、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を確保し、向上させるという目的をもって導入されたものです。

本対応方針における対抗措置の発動は、当社の業務執行から独立している委員で構成される独立委員会へ諮問し、同委員会の勧告を最大限尊重するものとされており、当社の企業価値ひいては株主共同の利益に資するよう、本対応方針の透明な運用を担保するための手続きも確保されております。

本対応方針は、株主総会での承認により発効することとしており、平成28年6月29日開催の当社第93期定時株主総会にて本対応方針について株主の皆様意思を確認させていただいたことから、株主の皆様のご意向が反映されております。また、本対応方針継続後、有効期間の満了前であっても、株主総会において、本対応方針の変更または廃止の決議がなされた場合には、本対応方針はその時点で変更または廃止されることになり、株主の皆様合理的意思に依拠したものとなっております。

本対応方針は、当社の株主総会で選任された取締役で構成される取締役会により廃止することが可能です。従って、本対応方針は、デッドハンド型買収防衛策（取締役会の構成員の過半数を交代させてもなお、発動を阻止できない買収防衛策）ではありません。また、当社は、取締役任期を1年としているため、本対応方針はスローハンド型買収防衛策（取締役会の構成員の交代を一度に行うことができないため、その発動を阻止するのに時間を要する買収防衛策）でもありません。

これらの理由により、本対応方針は、会社役員の地位の維持を目的とするものではありません。

（4）研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、3,219百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(5) 経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通し

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの経営成績に重要な影響を与える要因および経営戦略の現状と見通しについて重要な変更はありません。

(6) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

当社グループは現在、運転資金および設備資金につきましては、内部資金または借入により資金調達することとしております。このうち、借入による資金調達に関しましては、運転資金については期限が一年以内の短期借入金で、銀行等からの借入金および海外子会社の現地での借入金から構成されております。これに対して、生産設備などの長期資金は原則として固定金利の長期借入金で調達しております。

当社グループは、その健全な財務状態、営業活動によるキャッシュ・フローを生み出す能力および特定融資枠契約の締結による借入枠により、当社グループの成長を維持するために将来必要な運転資金および設備投資資金を調達することが可能と考えております。

なお、当社グループの資金状況は、「(2) キャッシュ・フローの状況」に記載のとおりであります。

(7) 経営者の問題認識と今後の方針について

当第2四半期連結累計期間において、経営者の問題認識と今後の方針についての変更はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	783,828,000
計	783,828,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (平成28年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成28年11月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	180,682,752	180,682,752	東京証券取引所第一部	単元株式数 1,000株
計	180,682,752	180,682,752	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額(百万 円)	資本準備金残 高(百万円)
平成28年7月1日～ 平成28年9月30日	-	180,682,752	-	17,742	-	15,113

(6)【大株主の状況】

平成28年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海一丁目8番11号	9,980	5.52
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町二丁目11番3号	9,814	5.43
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区大手町一丁目5番5号	6,461	3.57
明治安田生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内二丁目1番1号	6,256	3.46
JXホールディングス株式会社	東京都千代田区大手町一丁目1番2号	4,609	2.55
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	東京都新宿区西新宿一丁目26番1号	4,269	2.36
みずほ信託銀行株式会社	東京都中央区八重洲一丁目2番1号	4,232	2.34
JP MORGAN CHASE BANK 385174 (常任代理人 株式会社みずほ銀行 決済営業部)	25 BANK STREET, CANARY WHARF LONDON E14 5JP, UNITED KINGDOM (東京都港区港南二丁目15番1号)	4,206	2.32
CBNY-GOVERNMENT OF NORWAY (常任代理人 シティバンク銀行株式会社)	388 GREENWICH STREET, NEW YORK, NY 10013 USA (東京都新宿区新宿六丁目27番30号)	4,124	2.28
日油親栄会	東京都渋谷区恵比寿四丁目20番3号 日油株式会社経理部内	3,913	2.16
計	-	57,866	32.02

(注)1. 当社は、自己株式7,560,940株を保有しておりますが、上記の大株主から除いております。

2. 野村證券株式会社他1社連名にて、平成28年7月22日付で大量保有報告書に関する変更報告書の提出があり、平成28年7月15日現在でそれぞれ下記のとおり株券等を保有する旨の報告を受けておりますが、当社として当第2四半期会計期間末現在における実質所有株式数の確認ができないため、上記の大株主の状況には含めておりません。

氏名または名称	住所	保有株券等の数 (株)	株券等保有割合 (%)
野村證券株式会社	東京都中央区日本橋一丁目9番1号	20,445	0.01
野村アセットマネジメント株式会社	東京都中央区日本橋一丁目12番1号	6,369,000	3.52

(7)【議決権の状況】
【発行済株式】

平成28年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 7,560,000	-	-
	(相互保有株式) 普通株式 179,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 171,420,000	171,420	-
単元未満株式	普通株式 1,523,752	-	一単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	180,682,752	-	-
総株主の議決権	-	171,420	-

【自己株式等】

平成28年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合(%)
(自己保有株式) 日油株式会社	東京都渋谷区恵比寿四丁目 20番3号	7,560,000	-	7,560,000	4.18
(相互保有株式) 日光油脂株式会社	東京都墨田区東墨田二丁目 13番23号	179,000	2,000	181,000	0.10
計	-	7,739,000	2,000	7,741,000	4.28

(注) 他人名義所有分は、すべて持株会である日油親栄会の名義となっております。

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成28年7月1日から平成28年9月30日まで）および第2四半期連結累計期間（平成28年4月1日から平成28年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	19,081	19,911
受取手形及び売掛金	37,188	36,204
商品及び製品	19,205	18,784
仕掛品	4,115	4,112
原材料及び貯蔵品	9,766	10,446
その他	4,813	4,049
貸倒引当金	177	167
流動資産合計	93,993	93,340
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	22,560	21,780
土地	20,647	20,541
その他(純額)	13,706	14,316
有形固定資産合計	56,914	56,638
無形固定資産		
その他	1,715	1,635
無形固定資産合計	715	635
投資その他の資産		
投資有価証券	41,214	41,765
退職給付に係る資産	1,647	1,669
その他	1,867	1,809
貸倒引当金	59	60
投資その他の資産合計	44,669	45,183
固定資産合計	102,299	102,457
資産合計	196,293	195,798
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	18,320	17,570
電子記録債務	1,178	1,067
短期借入金	1,700	1,226
1年内返済予定の長期借入金	0	2,300
未払法人税等	4,079	3,563
賞与引当金	3,113	3,076
その他	10,618	10,074
流動負債合計	39,009	38,879
固定負債		
長期借入金	8,128	5,816
退職給付に係る負債	4,449	4,459
その他	9,068	9,224
固定負債合計	21,647	19,500
負債合計	60,656	58,379

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	17,742	17,742
資本剰余金	15,113	15,113
利益剰余金	89,735	96,128
自己株式	2,719	6,381
株主資本合計	119,871	122,602
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	17,270	17,663
為替換算調整勘定	572	1,169
退職給付に係る調整累計額	2,872	2,435
その他の包括利益累計額合計	14,969	14,058
非支配株主持分	795	758
純資産合計	135,636	137,419
負債純資産合計	196,293	195,798

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第 2 四半期連結累計期間】

(単位 : 百万円)

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 平成27年 4 月 1 日 至 平成27年 9 月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成28年 4 月 1 日 至 平成28年 9 月30日)
売上高	82,273	83,322
売上原価	58,040	55,942
売上総利益	24,233	27,380
販売費及び一般管理費	1 15,197	1 15,418
営業利益	9,035	11,962
営業外収益		
受取利息	96	64
受取配当金	451	483
為替差益	166	-
その他	325	327
営業外収益合計	1,041	875
営業外費用		
支払利息	42	35
為替差損	-	1,042
不動産賃貸費用	46	36
固定資産撤去費用	59	21
その他	58	65
営業外費用合計	207	1,202
経常利益	9,869	11,635
特別利益		
固定資産売却益	-	1
投資有価証券売却益	20	1
特別利益合計	20	2
特別損失		
固定資産売却損	0	0
固定資産除却損	19	15
投資有価証券売却損	-	1
その他	0	-
特別損失合計	20	17
税金等調整前四半期純利益	9,869	11,619
法人税等	3,010	3,277
四半期純利益	6,858	8,342
非支配株主に帰属する四半期純利益	5	1
親会社株主に帰属する四半期純利益	6,853	8,340

【四半期連結包括利益計算書】
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
四半期純利益	6,858	8,342
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	199	394
為替換算調整勘定	119	1,765
退職給付に係る調整額	196	437
その他の包括利益合計	121	933
四半期包括利益	6,736	7,409
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	6,730	7,429
非支配株主に係る四半期包括利益	6	20

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	9,869	11,619
減価償却費	2,412	2,384
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	21	8
受取利息及び受取配当金	548	547
支払利息	42	35
固定資産売却損益(は益)	0	0
投資有価証券評価損益(は益)	0	-
投資有価証券売却損益(は益)	20	0
売上債権の増減額(は増加)	981	171
たな卸資産の増減額(は増加)	366	683
仕入債務の増減額(は減少)	1,666	128
その他	439	29
小計	8,280	12,890
利息及び配当金の受取額	552	547
利息の支払額	42	33
法人税等の支払額	4,128	3,915
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,662	9,488
投資活動によるキャッシュ・フロー		
投資有価証券の取得による支出	14	15
投資有価証券の売却による収入	70	36
有形及び無形固定資産の取得による支出	2,834	2,599
有形及び無形固定資産の売却による収入	0	8
短期貸付金の純増減額(は増加)	16	43
長期貸付けによる支出	0	-
長期貸付金の回収による収入	3	2
その他	2	57
投資活動によるキャッシュ・フロー	2,756	2,466
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	462	326
長期借入金の返済による支出	0	0
自己株式の取得による支出	2,980	3,662
ファイナンス・リース債務の返済による支出	59	43
配当金の支払額	1,615	1,940
非支配株主への配当金の支払額	4	2
財務活動によるキャッシュ・フロー	5,123	5,975
現金及び現金同等物に係る換算差額	218	750
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	3,434	296
現金及び現金同等物の期首残高	14,640	18,930
現金及び現金同等物の四半期末残高	11,205	19,226

【注記事項】

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、主として当第 2 四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる会社については、法定実効税率を使用して計算した金額を計上しております。

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年 3月28日) を第 1 四半期連結会計期間から適用しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 のれんは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
のれん(無形固定資産)	22百万円	15百万円

2 受取手形裏書譲渡高

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
受取手形裏書譲渡高	10百万円	3百万円

3 保証債務

連結会社以外の会社の金融機関等からの借入に対し、債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
尼崎ユーティリティサービス(株)	15百万円	10百万円
恩欧富塗料商貿(上海)有限公司	55	55
計	70	65

4 債権流動化に伴う買戻義務は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
債権流動化に伴う買戻義務	1,563百万円	1,608百万円

(四半期連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目および金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
発送配達費	2,523百万円	2,520百万円
給料手当および賞与	3,420	3,470
退職給付費用	293	404
賞与引当金繰入額	973	1,032
執行役員退職慰労引当金繰入額	13	13
研究開発費	2,719	2,650
のれん償却額	3	3

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

- 1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)
現金及び預金勘定	11,086百万円	19,911百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	872	684
有価証券(MMF)	992	-
現金及び現金同等物	11,205	19,226

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年6月26日 定時株主総会	普通株式	1,621	9	平成27年3月31日	平成27年6月29日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年11月5日 取締役会	普通株式	1,240	7	平成27年9月30日	平成27年12月1日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年6月29日 定時株主総会	普通株式	1,948	11	平成28年3月31日	平成28年6月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年11月2日 取締役会	普通株式	1,558	9	平成28年9月30日	平成28年12月1日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	機能化学 品事業	ライフサイ エンス 事業	化薬事業	計				
売上高								
(1)外部顧客への売上高	53,532	12,778	15,264	81,574	698	82,273	-	82,273
(2)セグメント間の内部 売上高又は振替高	470	1,012	8	1,491	3,716	5,207	5,207	-
計	54,002	13,791	15,272	83,066	4,415	87,481	5,207	82,273
セグメント利益	6,178	2,234	1,013	9,427	57	9,484	448	9,035

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、運送、不動産販売および管理業務等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額 448百万円には、セグメント間取引消去110百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 558百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	機能化学 品事業	ライフサイ エンス 事業	化薬事業	計				
売上高								
(1)外部顧客への売上高	55,042	12,702	14,903	82,647	674	83,322	-	83,322
(2)セグメント間の内部 売上高又は振替高	393	1,347	6	1,747	3,559	5,306	5,306	-
計	55,435	14,049	14,909	84,395	4,233	88,628	5,306	83,322
セグメント利益	9,061	2,627	783	12,472	100	12,572	610	11,962

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、運送、不動産販売および管理業務等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額 610百万円には、セグメント間取引消去112百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 723百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額および算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	38円40銭	47円78銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (百万円)	6,853	8,340
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期 純利益金額(百万円)	6,853	8,340
普通株式の期中平均株式数(千株)	178,465	174,562

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

平成28年11月2日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 中間配当による配当金の総額.....1,558百万円

(ロ) 1株当たりの金額.....9円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日.....平成28年12月1日

(注) 平成28年9月30日現在の株主名簿に記載または記録された株主に対し、支払いを行います。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成28年11月9日

日油株式会社

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 池内 基明 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 丸山 高雄 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている日油株式会社の平成28年4月1日から平成29年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成28年7月1日から平成28年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成28年4月1日から平成28年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、日油株式会社及び連結子会社の平成28年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。